

# 末黒野

すぐろの



7月号 (通巻767号)

# 花吹雪

青錆びし鳥居の基の花の冷  
富士据ゑて如月の嶺々弧を描く  
洞窟を出で春潮に眼を細む  
帆柱を止り木代り春の鳶  
三方を花に囲まれ保育園  
春昼の客を見送り門を掃く

小川玉泉

御手洗を薄桃色に花の塵  
うかうかと介護に暮れぬ庭桜  
胴青きカヌーの潜る花吹雪  
砂州に着くみどりのカヌー花の昼  
一病といふも万苦や八重桜  
放浪の性かも知れずかたつむり  
春雷「遠嶺」小澤克己主宰を悼むに遠嶺の裂くる思ひかな  
龍天に昇り遠嶺を見そなはず  
俳聖を目指せし君へ花吹雪  
主の亡く除幕待つ句碑竹の秋  
喪ごころに染むる山吹白ひと重

# 春の風

松本三千夫

開放の基地のさくらや海へ散り  
三楹や荒れぐせの風海へ去り  
蒲公英や富士置く丘の昏れなづみ  
蒲公英の絮吹くや湧く旅ごころ  
島一つ置く源氏池柳絮飛ぶ  
藤棚を渡る城址の風重し  
諸葛菜鎮守の杜に風棲みて  
出来不出来仲良く並ぶ葱坊主  
降りぐせ金沢区野島旧伊藤博文別邸の空や馬酔木の花若く  
妻恋のこころ奪へり緋の牡丹  
春の風入れて水屋の連子窓  
黒塗りの厨明るし春障子

# 甲矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）

## 江の島の春

清海信子

潮の香のときをり強し諸葛菜  
のどけしや進むと見えぬ帆の進み  
早々と壺焼二つ小屋とす  
うららかや展望台の切符手に  
三楹の花や眼下に鳶の笛  
桜東風ココ椰子の葉の盛り上がる  
貝の図の絵タイル踏みて島の春  
百千鳥森は眉目をひらきけり  
乳の香の乳母車なり蝶の蹤く  
芽吹き空ゆすり乗馬の少女かな

## 仔馬立つ

黒滝志麻子



初蝶や潤みはじめし池の碧  
墨うすき魚拓や島の宿のどか  
こぼれくる朝の光や仔馬立つ  
寺町の続く坂道初燕  
げんげんやゆるゆるすすむ一輛車  
江の島の隅なく晴るる桜どき  
朧夜や琥珀色濃きブランデー  
芸亭の桜蔭降る汽笛かな  
山畑の一畝高く茄子植うる  
昼灯す厩舎の窓や花ゆすら

# 乙矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）  
太字は推薦句

## 桜並木

木下和代

観察の森の木の香や花木五倍子  
風軽し踊子草の群に触れ  
次の橋までの土手道桜草  
芽柳の枝先の風影広げ  
花桃や鯉押し上ぐる池の面  
昏れなづむ山に溶け入る桜かな  
さくら並木ゆつくり走る路線バス

## 花の雲

熊切光子

水榭の芽吹き急なり湖の風  
残さるる白鳥一羽花の雲  
散る桜細氷のごと煙めきて  
散り敷きて露曼陀羅の桜かな  
吊革に揺れて蛙の目借り時  
たんぽぽをちりばめ峡の野面積  
曇れども沖定かなり豆の花



春コート

小山紫乃布

諦めし夢ありシャボン玉とんで  
 胸中にさくら降らせば先師の句  
 夕暮や風ごと羽織る春コート  
 松の花父に近づく香を焚く  
 人生の半ばを過ぎぬ葱坊主  
 春惜しむ磯の香ふくむ置手紙  
 木苺の花やすすまぬ三輪車

春惜しむ

小山ミツ子

沈丁の闇衣擦れを思ひ出づ  
 春日傘たつきの染みをつけまじく  
 なごり雪と思ひ手に受く旅の果  
 花の精肩をかすめて風に乗る  
 起きてゐる夢見てをりし朝寝かな  
 羽衣の舞ひ擲やかや春惜しむ  
 誕生日忘るる我に苺の朱

揚雲雀

鈴木一三

揚雲雀空の青さを深くせり  
 味噌汁の春筍里の香り濃し  
 木洩れ日にゆるる木五倍子の花念珠  
 雉子鳩の頻りに恋す穀雨かな  
 三月二十三日娘逝く、四十六歳  
 物言はぬ子の髪を梳く彼岸冷  
 折鶴に籠る子の息木の芽冷  
 憂き事の失せざる日々や藤の花

亀鳴く

西川みほ

年取らぬ羅漢の胡坐春埃  
 土筆生ふ今年は父の忌に遅れ  
 入り彼岸妣の齢を指折りぬ  
 赴任地は春雪舞ふと子のメール  
 頑に亀鳴くと言ふ旅の僧  
 世を憤るごと春雷の一打かな  
 負け猫の四肢に乾きし春の泥

# 万 仞 集

春 昼 や も の 言 は ぬ 夫 帰 り 来 し	全 容 の 富 士 へ 一 枝 の 初 桜	釣 人 の 獲 物 の 蛸 を 岩 に 打 つ	花 を 待 つ ふ る 里 遥 か 啄 木 忌	師 の 墓 を 詣 で て 春 の 人 と な る	切 株 を 机 代 り に 花 の 山	初 <sup>は</sup> 瀬 <sup>せ</sup> 寺 <sup>でら</sup> の 長 き 回 廊 花 の 雨	樹 木 医 の 幹 叩 く 音 花 の 冷 え	島 人 の 抜 け 道 暗 し 花 き ぶ し	鶴 鴿 の つ つ と 走 り ぬ 花 筏
小 池 正 子	秋 山 梯 步	山 崎 稔 子	戸 田 澄 子	小 田 嶋 野 笛	内 藤 庫 江	杉 山 弥 生	早 川 芳 子	城 戸 緑	熊 切 修



# 巨林抄

啓 蟄 や 人 の う ご め く マ ン ホ ー ル	人 待 ち て 桜 人 と は な り に け り	鉦 彫 の あ た た か き か な 菩 薩 像	花 吹 雪 風 の 形 の 演 舞 か な	倒 木 の 沈 く 山 湖 や 花 万 朶	千 の 蝌 蚪 棲 め る 水 よ り 昏 れ に け り	こ ん が り と 汐 の 香 匂 ふ 蒸 鱧	白 木 蓮 天 よ り 光 零 し け り	初 蝶 の た ま ゆ ら に 曳 く 光 か な	潜 水 艦 菜 花 の 波 の 上 を 航 く	春 筍 に 赤 子 の 匂 ひ あ り に け り	雪 柳 阿 修 羅 と な り て 風 を 揉 む
中 山 隆 士	上 月 智 子	神 谷 さ う び	山 口 郁 子	山 田 本 女	及 川 照 子	北 郷 和 顔	根 本 公 子	竹 村 清 繁	中 島 ひ ろ し	芝 孝 子	山 崎 幸 夫